

臨床心理基礎実習Ⅰ

必修 1単位
稲垣 綾子・石田 航・綾部 直子

1. 授業の概要(ねらい)

心理臨床家として心理療法や対人援助を行う上で、単に臨床心理学関連の理論や知識を得るのみではなく、体験学習を通してその理念や具体的な技法を総合的に体得する必要がある。実際の臨床心理学的な対人援助は、基本的理論や知識を背景としながらも、個性や関係性を重視しながら多様に展開していく。

本大学院においては、心理臨床の実践家を育てるために、「臨床心理基礎実習」と「臨床心理実習」を重要な必修カリキュラムとして位置付けている。この「臨床心理基礎実習」は修士1年全員を対象とするものである。この実習を通じて、心理療法や対人援助の基本的考え方や技法の習得を目指す。これらの習得によって、実習生として実際にクライアントを担当し、臨床心理学的対応が可能となるレベルを目指す。

2. 授業の到達目標

この基礎実習の最終目標は、附属の心理臨床センターなどの実習機関において、実際にクライアントへ対応できるレベルまで技能の向上を行うことである。この目標は当授業および実習に出席し毎回体験を積み重ねることで達成可能となるので、欠席しないようにコンディションを整えることが重要である。なお、心理臨床センターにおける実習に関しては一定の条件を満たした者とする。

3. 成績評価の方法および基準

授業態度20%、ディスカッション・発表・ロールプレイなどのアクティビティへの参加度40%、センター実習10%、課題30%

4. 教科書・参考文献

教科書

マリアン・コーリィ 心理援助の専門家になるために 金剛出版

アレン・E・アイビィ マイクロカウンセリング 川島書店

参考文献

土居健郎 新訂 方法としての面接 医学書院

鐘幹八郎 心理臨床と倫理・スーパーヴィジョン ナカニシヤ出版

鐘幹八郎 試行カウンセリング 誠信書房

5. 準備学修の内容

『試行カウンセリング』はロールプレイで使用するため4月中に精読すること。
テキストに挙げた書物だけでなく、様々な心理臨床の書物にあたること。

6. その他履修上の注意事項

真剣に学ぼうとしている他の院生の邪魔をしないこと(私語、携帯電話、遅刻・欠席など)。

主体的・創造的な参加が望まれる。

心理臨床家になるためには、単に授業に出席するだけではまったく不十分である。カリキュラムはあくまで最低限の考え方や体験を提供するものであり、それらをどのように深めていくか個人的に修練が必要となる。

心理臨床場面は常に未知の体験の連続である。知らないことへの探究心や研究の姿勢を持つことが重要となる。臨床心理学の研究のマインドを保ちながら、その基本となる姿勢をこの実習で身につけてほしい。

ゲストスピーカーを招くことがある。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目です。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス(大学院における授業と実習について)
心理臨床家になるということ(臨床家の発達と適性について)
- 【第2回】 ロールシャッハテスト体験
- 【第3回】 心理臨床センターについて
心理臨床センター見学
- 【第4回】 社会人としての接遇について
マイクロカウンセリングとは
- 【第5回】 かかわり行動-効果的な傾聴法の基礎と質問法
- 【第6回】 明確化・要約技法・感情の反映技法
ロールプレイ:オリエンテーション・役作り
- 【第7回】 ロールプレイ1(第1回面接)
- 【第8回】 ロールプレイ2(GSV1)
- 【第9回】 ロールプレイ3(GSV2)
- 【第10回】 ロールプレイ4(第2回面接)
- 【第11回】 ロールプレイ5(GSV3)
- 【第12回】 ロールプレイ6(GSV4)
- 【第13回】 心理臨床センターガイダンス
- 【第14回】 教育訓練における学習を効果的にすることについて・初心者が直面する問題
- 【第15回】 前期まとめ